

2019年度 秋季特別展

上野誠版画展

「原爆の長崎」への道程

2019年 11月7日[木] — 12月18日[水]
立命館大学国際平和ミュージアム 中野記念ホール

開館時間 9時30分—16時30分（入館は16時まで）休館日 日曜日
主催 立命館大学国際平和ミュージアム（協力 ひとミュージアム 上野誠版画館）
後援 京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、
京都市内博物館施設連絡協議会、NHK 京都放送局、KBS 京都、
朝日新聞社、京都新聞、毎日新聞京都支局、読売新聞社

 立命館大学
国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University



京博連



the Kyoto



「ヒロシマ三部作」1959年



「長崎の像」1963年



「長崎」1968年



「長崎」1972年（複製）



「長崎」1955年

長野・川中島に生まれた上野誠（1909-80）は、『ヒロシマ三部作』（1959）、「原子野連作」（1968-76）など広島・長崎の原爆被害を描いた版画家です。1929年東京美術学校に入学しますが、1932年学内改革運動での検挙をきっかけに中退。その後、木版画を本格的に始め、労働者や女性の苦悩を描いたドイツ人版画家で彫刻家のケーテ・コルヴィッツに強く影響を受けました。戦後は、新潟・六日町で農民や労働者をモチーフに制作を続け、1952年に上京。ビキニ事件のおこった1954年、東京・上野駅で原水爆禁止を訴える広島の被爆者に出会い原爆被害を描くようになりました。1961年には長崎を訪れ被爆者から直接証言を聞き、同年10月から連作『原爆の長崎』に着手、12月には掌版シリーズ（小版習作）の制作も開始しました。国内外で作品を発表しながら、1970年版画集『原爆の長崎』（新宿書房）を刊行しました。

本展では、1961年から62年にかけて日記をつけるように制作した掌版シリーズと友人で版画家の景川弘道へ宛てた手紙を糸口に、上野が被爆者の体験に向き合い作品にしていっていった過程を辿ります。生誕110年にあたる本年、戦後復興の陰で差別や貧困、後遺症に苦しむ被爆者の訴えを版に刻み続けた上野の反戦・平和へのメッセージを遺された作品を通して伝えます。



10



11



12



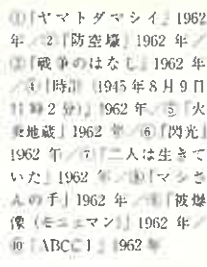
13



14



15



16

①「ヤマトダマシイ」1962年／②「防空壕」1962年／③「戦争のはなし」1962年／④「時間」1945年8月9日11時2分／1962年／⑤「火と地震」1962年／⑥「閃光」1962年／⑦「二人は生きていた」1962年／⑧「マシビ」1962年／⑨「被爆像（モニュメント）」1962年／⑩「ABC」1962年

館蔵以外のはひとミュージアム上野誠版画館蔵

2019年**11月7日[木]**—**12月18日[水]**
立命館大学国際平和ミュージアム 中野記念ホール

開館時間 9時30分～16時30分（入館は16時まで）休館日 日曜日

観覧料 大人 400円（350円）、中高生 300円（250円）、小学生 200円（150円）

※（ ）内は20名以上の団体料金です。※常設展もあわせてご覧いただけます。※11月16日は関西文化の日ため入館無料

関連企画

トークイベントⅠ「日本の加害責任を版画にした上野誠」11月9日[土] 14時～15時30分

田島 隆 氏（ひとミュージアム上野誠版画館 館長）

トークイベントⅡ「父・上野誠」11月16日[土] 14時～15時30分 **関西文化の日**

上野 遼 氏（版画家・ひとミュージアム上野誠版画館 副館長） 後半にギャラリートークを予定

会場：立命館大学国際平和ミュージアム1階ロビー 申込不要・参加費無料（本展および常設展の見学には別途観覧料が必要です）



立命館大学
国際平和ミュージアム

Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University
〒603-8577京都市北区朝陽院北町56-1
TEL.075-465-8151 FAX.075-465-7899
https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/

交通案内
市バス12 50 51 52 55 59 61 J.R.バスにて「立命館大学前」下車
徒歩2分 市バス204・205にて「わら天神前」下車 徒歩10分
※お車での来館はご遠慮下さい